

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0372600262
法人名	株式会社シリウスケアサービス
事業所名	グループホーム平泉
所在地	〒029-4102 岩手県西磐井郡平泉町平泉字日照田133-2 (電話) 0191-46-5662

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター3F
訪問調査日	平成19年10月16日
評価確定日	平成19年12月10日

【情報提供票より】(19年 9月23日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 11月 3日
ユニット数	1 ユニット
職員数	8 人
利用定員数計	9 人
常勤	8 人
非常勤	1 人
常勤換算	8 人

(2)建物概要

建物構造	木造 造り
	1 階建ての 1 階 ~ 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	0 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	- 円
	または1日当たり	1,000 円		

(4)利用者の概要(9月 23 日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88 歳	最低	80 歳	最高	99 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	阿部医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>平泉駅より西へ4kmの田園地帯に位置し、観光道路、県道31号線沿い達谷窟へ通じる道路に面した木造平屋建。交通量が多く、散歩時には十分留意が必要。隣近所とは近く一般家庭が地域の中にある感じの環境。</p>
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価結果についても全職員で検討し、改善に取り組んでいる。毎月全職員参加の勉強会を開催し、コンプライアンス(マニュアル)についても勉強し資質向上に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員参加で自己評価に取り組んでもらい記載してもらったものを管理者が取りまとめる体制で策定した。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>民生委員、区長代理、行政担当者、利用者家族、グループホーム職員で構成され2ヶ月に1回開催し、サービス向上に意見交換している。2ヶ月に1回開催で、家族の参加がやや少ない状況があり、今後の運営推進会議の進め方を考えていくことが大切と感じられる。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族へアンケート毎年1回実施、毎月25日に請求書と一緒に利用者の生活状況を手紙で知らせている。要望箱を設置しているが実例はない。面会の頻度が多く家族とのコミュニケーションは取れている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホーム主催の夏祭りに地域の方々を招待し開催、模擬店、ヨサコイソーランなど、いもの子会も開催予定。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者から今日も一日いがったなあと言ってもらえるホームを目指し取り組んでいる。地域の交流の場となることを大切にしている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をホーム廊下やホールに掲示し、利用者家族、職員で共有して取り組んでいる。	○	現在も取り組んでいるが、「報告・連絡・相談」を徹底しより良いチームワークを確立しサービスのより一層の向上を期待する。
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム主催の夏祭に地域の方々を招待、模擬店、ヨサコイソーランなど実践、近隣の農家の方から野菜をいただいている。ホーム主催のいもの子会も計画中。	○	現在も交流があるけれど、もっと地域の一員として地域の行事に積極的に参加し、ホーム主催の行事でも受け入れを増やすことを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員会議実施後にコンプライアンス勉強会を毎月実施している中に、自己評価、外部評価も議題として全職員で検討、要改善事項は具体的な改善策を協議している。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、区長代理、行政担当者、利用者家族、グループホーム職員で構成され2ヶ月に1回開催し、サービス向上に意見交換している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>一般家族を対象とした、行政主催の「家族介護教室」の会場を提供した。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月25日締切で家族へ手書きの手紙を送付している。健康状態、受診の相談・日常生活状況、金銭管理などをお知らせしている。2ヶ月1回の広報誌も発行している。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ホールに要望箱を設置しているが実例はない。運営推進会議の構成員としても家族の代表者が参加、面会頻度が多いのでその都度意見要望をお聞きしている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>今年2名異動(育休など)、利用者の方が自発的に歓送迎会を企画して実施してくれる。新しい職員には利用者様と関わる時間を多くする等配慮している。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>各機関開催の研修会に積極的に参加している。毎月職員会議後に勉強会を開催し、資質の向上に取り組んでいる。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>岩手県のグループホーム協会、県南ブロックの定例会に必ず職員が参加している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用申し込みがあった時に調査(アセスメント)のため職員が必ず面会し本人や家族から意見要望を聞いている。グループホームを見学していただき、利用者様とお茶飲みしながらグループホームの雰囲気を感じてもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活(調理手伝、花壇造り、季節の行事、買物等)の中でコミュニケーションを通し支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の日々の生活の中でいつでも相談できるように耳をかたむけ、時間をかけても対応している。要望箱を設置しているが実例はない。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月開催する職員会議後にケアプラン会議を開催、入居、家族の面会時に意見・要望をお聞きし、ケアプラン策定に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月又は6ヶ月に1回、介護計画の見直しをしている。支援経過記録又は介護記録などから、状態変化に対応した見直し計画を策定している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	食事でめん類が嫌いな方にはおにぎりを提供、自宅で2~3日暮らしたい方には外泊をしていただくなど、利用者のニーズに柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者家族の希望に添い、かかりつけ医の受診を基本としている。協力医には年2回の健康診断、インフルエンザの予防接種を依頼している。	○	現在の協力医師から辞退の申し出があり、早急に協力医の確保に努めて欲しい。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に関して、医師やスタッフ・家族と協議しグループホームとして支援可能な部分について支援していく方針であるが、マンパワーの面で終末期の受け入れを検討中である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	毎月のコンプライアンス会議での議題としても個人情報保護法も勉強している。広報についても承諾を得て写真等を掲載している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合せ生活していただくことが理念であり、サービスの基本としている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食、季節食など利用者の助言を得ながら調理している。利用者も調理手伝、後片付など積極的に参加している。献立は6日毎に職員が交替で策定している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎朝バイタルチェックを実施し入浴の可否を確認してからの入浴、利用者の希望に添った入浴を実施している。男性職員による入浴介護は了解を得て実施、現在のところ違和感はない。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ピアノを弾いたり、調理手伝・後片付・廊下清掃など自発的に自分の役割ができています。外出を家族と一緒に楽しんだり、お墓参りしたりと利用者の希望を支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ドライブ週1回、理美容は職員又は家族の付添で行きつけの場所を利用している。馴染みの所への散歩・あやめ祭・萩祭り・紅葉見学など利用者からの希望を支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の施錠はなし。玄関にセンサーを設置しており、センサーが作動すれば職員が常に見守っている。部屋の施錠もしていない。防犯のため夜8時以降については施錠している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地元消防署の協力のもと、消火訓練、救急救命訓練を毎年実施している。地元消防組織を検討中である。	○	地域の方々の協力を得て、地域防災組織を結成できるよう期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業務日誌で食事、水分チェック、服薬、バイタルチェックを確認している。献立は職員が6日毎に交替で策定、専門職(栄養士等)による献立チェックがない。	○	専門職(栄養士等)による献立のチェックを受けることを望む。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール(茶の間)に堀コタツ、廊下に座椅子、利用者家族の作品展示、テーブルには季節の花が飾られていて、良い環境である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベットとカーテンはグループホームの物であるが、その他は利用者の希望の物である。家庭で使い慣れた整理タンスを持参している利用者が多い。		